

平成 20 年 5 月 12 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉 井 信 光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：経営戦略本部 財務部長 鷲本 晴 吾
電 話 番 号：(03) 5733-2121

貸倒引当金繰入の計上及び平成20年9月期通期・中間期の業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において、販売費及び一般管理費に貸倒引当金の繰入を計上いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 19 年 11 月 14 日に発表しました平成 20 年 9 月期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）通期・中間期の連結及び個別業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 貸倒引当金繰入の計上及びその内容

平成 19 年 12 月 20 日に当社の連結子会社である S P & W ・アスクレピオス投資事業組合 4 号が医療機関向け機器およびコンサルティングに必要な資金調達のための取組みに、2,200 百万円を出資した案件について、平成 20 年 3 月 21 日を期限として、丸紅株式会社より同組合に資金が償還されることとなっておりましたが、現時点においても未だその資金が償還されておられません。

当社は、本件について事件性が強いものと考え、全面的に捜査に協力するとともに、当社としても独自に事実関係を調査しており、最善の債権回収の方法を探っております。

一連の取組みの中で、上場株式約 19 億円（3 月 31 日時点の株価を基に算出した時価であり、回収額は今後の株価等に左右されます。）を担保としておりますが、担保物については金融検査マニュアルの自己査定基準を鑑みながらも保守的に時価の概ね半分と評価し、当中間期の連結決算及び単体決算のそれぞれにおいて、販売費及び一般管理費に当債権に対する 1,268 百万円の貸倒引当金の繰入を計上することといたしました。

2. 平成20年9月期中間期業績予想の修正について

(1) 個別 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	4,081	1,988	1,758	833
今回修正予想 (B)	3,477	845	885	226
増減額 (B-A)	△603	△1,143	△872	△607
増減率 (%)	△14.8	△57.5	△49.6	△72.9
(ご参考) 前期実績 (19年9月期中間)	4,667	3,236	2,854	1,432

(2) 連結 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	9,040	3,035	2,854	733
今回修正予想 (B)	8,961	2,312	1,636	△415
増減額 (B-A)	△78	△722	△1,218	△1,149
増減率 (%)	△0.9	△23.8	△42.7	—
(ご参考) 前期実績 (19年9月期中間)	6,151	2,615	2,432	1,222

(3) 業績予想の修正の理由

① 個別業績

昨年のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融市場の混乱は、今年に入ってから続き、不動産開発プロジェクト案件への金融機関によるノンリコース・ローンの提供が減少したことに伴い、当社の昨年11月の業績予想発表時の想定より、ファイナンスアレンジの難易度が増しました。また、直近の不動産価格の動向を鑑み、当社は平成19年10月より審査基準を厳格化し、案件の選別を行った結果、新規のローンの実行が減少し、売上が伸び悩みました。また販売費及び一般管理費において、1.に記載した貸倒引当金繰入を計上したことにより、営業利益、経常利益がそれぞれ減少したことに加え、子会社のフィンテック グローバル証券株式会社に対する投資損失引当金の繰入れ256百万円などにより、特別損失482百万円（第1四半期決算で計上した182百万円を含む累計額）を計上したことで、中間純利益が減少する見込みであります。

② 連結業績

売上高については、子会社のエフエックス・オンライン・ジャパン株式会社の売上高が、積極的なマーケティングの実施及び市場のボラティリティーの上昇による取引増加により当初予想を上回る見込みであることから、その他の子会社及び当社個別の売上の未達を補い、ほぼ前回の業績予想通りとなる見込みであります。営業利益については、当社個別で販売費及び一般管理費に貸倒引当金繰入を計上したことにより減少する見込みであります。また、子会社のStellar Capital AG及びCrane Reinsurance Limitedの資金運用について、急激な円高局面と市場環境の変化により為替差損及び有価証券評価損が発生し、他の子会社の為替差損とあわせ475百万円（第1四半期決算で計上した120百万円を含む累計額）を営業外費用に計上するため、経常利益及び中間純利益が減少する見込みであります。

3. 平成20年9月期通期業績予想の修正について

(1) 個別 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	8,350	4,241	3,793	1,972
今回修正予想 (B)	5,412	1,158	1,119	364
増減額 (B-A)	△2,937	△3,082	△2,673	△1,608
増減率 (%)	△35.2	△72.7	△70.5	△81.5
(ご参考) 前期実績 (19年9月期)	7,287	4,230	3,731	1,806

(2) 連結 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	17,607	7,139	6,853	1,991
今回修正予想 (B)	15,626	5,024	4,768	614
増減額 (B-A)	△1,980	△2,115	△2,085	△1,377
増減率 (%)	△11.2	△29.6	△30.4	△69.2
(ご参考) 前期実績 (19年9月期)	16,914	6,286	5,951	1,767

(3) 業績予想の修正の理由

① 個別業績

下半期においても世界的な金融市場の混乱による信用収縮および国内の不動産マーケットの調整が続くことが想定され、金融機関の不動産への融資姿勢も依然として厳しいことが予想されます。このため、不動産開発案件を抱える事業者から、当社の開発型証券化およびブリッジローンへの引合いは強いものの、案件への資金がつきにくい環境は平成19年11月14日発表の予算作成時より、深刻になっていると考えております。

このため、通期の売上高については、中間期までの売上減少に加え、下半期も開発型証券化案件及びブリッジローン案件の組成額が当初の見込みより減少することにより、当初予想を下回る見込みであります。非不動産案件を積極的に取込むこと及び不動産証券化についても資金力のある海外資金拠出者をアレンジするなどの新しい切り口の取組みにより収益を確保して参ります。営業利益、経常利益及び当期純利益についても、中間期までの業績及び売上高が当初見込みより減少することにより、当初予想より下回る見込みであります。

② 連結業績

売上高については、子会社のエフエックス・オンライン・ジャパン株式会社は、下半期も引続き好調を維持する見通しであるものの、個別の売上が当初の見込みより減少すること、その他の子会社の売上高が大きく進捗しない見込みであること及び中間期までの連結の売上未達により、当初の見込みを修正するに至りました。営業利益については、売上減少及び中間期での貸倒引当金繰入計上の影響により当初の予想より減少する見込みです。Stellar Capital AG及びCrane Reinsurance Limitedが行う資金運用で中間期に計上した為替差損及び有価証券評価損については、現状の為替動向及び市場動向から判断し、通期において一定の回復を見込んでいるものの、売上減少、営業利益減少の影響により、経常利益、当期純利益とも、予想値に対し減少する見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以上